

名前：

インターネットの普及した現代において、ネット上でニュースの配信が行われるようになった。そのため、一部の人は「もう新聞や雑誌は必要ない」という。しかし、本当にそうなのだろうか、

まずは、インターネットの利点を考えてみる。その最たるものは速報性だろう。なるほど、確かに単純にニュースを「知る」のであれば、インターネットのニュース配信で事足りる。しかし、「知る」だけで十分なのだろうか。これでは世の中を受動的に見ることしかできないと思う。

そして、インターネットによるニュース配信の欠点を補うのが新聞や雑誌である。インターネットのニュース配信が、速報と銘打ったものが殆どあることと異なり、例えば連載記事やその会社なりの事件に対する意見が新聞や雑誌にはある。また、特に新聞では1つのニュースに対してその背景や解説も詳しく書いてある。これらのことによ、て我々は二

ュースを「知る」だけでなく、「考える」機会が与えられることになる。

少々話が飛躍するが、ここからの時代の人間に求められているのは思考力であったり、創造力であったりするので、単に知っているだけでは実社会において通用しないだろう。だからこそ、考えるという作業は非常に重要なのである。

私はこの文章において、「インターネットのニュース配信は粗悪だ」と言いたが、たのではない。インターネットで欠けている部分を補うものとして、新聞や雑誌が必要だと言いたがったのである。

じくりと腰をすえ、手で紙をめくり、沈黙考する。この思考の様式はここからも必要なだろう。そして、人間がものごとを深く知ろう、考えようと思ひ続ける限りは、その思考の様式を実現する新聞や雑誌はなくならないだろう。そして、なくしてはならないのである。

1800字